

## 「共産党のイカル」

私が浅間高原（北軽井沢）に設置した、バードテーブルには、実にさまざまな野鳥がやってきます。一番多いのはシジュウカラ（四十雀）。これは都会でも同じです。黒いネクタイをしているので、飛んでもすぐにわかります。次にヤマガラ（山雀）。オレンジ色の人なつこい野鳥で、慣れると人の手のひらでも餌を食べます。シジュウカラやヤマガラは、いずれも木の洞（うろ）や、アカゲラ（キツツキの一種）があけた穴を利用して子育てをする、樹洞性営巣の野鳥です。彼らは都会でも高原でも、慢性的な住宅難で、郵便ポストや雨戸の戸袋にまで巣を造ってしまいます。



「ヤマガラ」 やっと取り出せた、種子の中身をくわえて嬉しそう。（撮影；田中千尋 / 北軽井沢）

バードテーブルに来る野鳥で一番目立つのはイカル（斑鳩）です。高原の野鳥で、文鳥を二回りぐらい大きくしたような姿で、キリッとした目つきで、ぜんぜんかわいくありません。大きな嘴は、種子を割って食べるのに適しています。シジュウカラやヤマガラは雑食性で、巣のヒナにエサの幼虫を運ぶので、嘴は細く小さいです。ヒマワリの種は木の枝に置いて、両足で挟んで何度も嘴でたたいて中身を食べます。ところがイカルは大きな嘴と舌で、足を全く使わずに器用に種子の皮をむいて、次から次へと食べてしまいます。しかもイカルは10名様以上の「団体割引」で来るので、春先はあっという間にバードテーブルがエンプティになってしまいます。

そんな姿に似合わず、イカルは高原一の美声の持ち主です。口笛のような非常に澄んだ声を森に響かせるのです。そもそも野鳥の鳴き声を文字で表記するのは非常に困難ですが、日本では古くから、言葉に置き換えた「聞きなし」という方法で、他者に伝えてきました。（「聞きなし」は英語にもあります。）

【有名な野鳥の「聞きなし」の例】

- ・ウグイス・・・「ホ～～法華経」
- ・ホトトギス・・・「特許許可局」（実在のお役所は「特許庁」）
- ・コジュケイ・・・「ちょっと来い、ちょっと来い・・・」（英語では“People pray、People pray”）
- ・コノハズク（ミミズク的一种）・・・「仏法僧、仏法僧・・・」（「僧」にアクセント）

イカルにも、「お菊二十四」、「月・日・星」などの聞きなしが存在します。確かにリズムはどちらも合っています。しかし、声に出して発音してみると、実際のイカルの鳴き声とは、抑揚が合致していません。リズムも抑揚もイカルの鳴き声と完全に合っている言葉はないか、考えました。その結果、

## 書記長、君？

が、最も正確にイカルの鳴き声を表現していると、私は思っています。きっと共産党の鳥なんですね、イカルは・・・。ははは。

子どもたちに野鳥の声を聞かせて、何と聞こえるか話し合わせると、きっと面白いと思います。



「共産党のイカル」 文鳥を巨大にしたような姿、ぜんぜんかわいくありません。しかもバードテーブルのエサを一掃してしまいます。しかし、高原一の美声家です。